



学校だより第5号

令和8年8月26日

発行

大阪市立大開小学校

一步を踏み出す子どもたちへ

長いようで短かった夏休みが終わり、校舎に子どもたちの明るい笑顔と活気ある歓声が戻ってきました。夏休み中、大きな事故や怪我もなく、こうして無事に2学期を迎えられましたのは、保護者の皆様や地域の皆様が、子どもたちを温かく見守り、支えてくださっているおかげです。心より感謝申し上げます。

さて、2学期は1年の中で最も長く、学習や運動にじっくりと取り組める充実の時期です。それと同時に、運動会や全校遠足など、目標に向かって力を合わせる大きな行事も控えています。子どもたちが大きく成長する絶好のチャンスですが、新しいことへの挑戦には、時に不安や失敗への恐れがつきまといます。しかし、世界的な発明王として知られるトーマス・エジソンの逸話は、その恐れを払拭してくれます。

エジソンは「白熱電球」を開発する際、光を長く灯し続けるための素材(フィラメント)探しに、想像を絶する苦労を重ねました。世界中のありとあらゆる素材、およそ6千種類以上を試したものの、すべて失敗に終わったそうです。周囲の人々が「これだけやってダメなら、もう諦めたらどうか。すべての努力が徒労(無駄)に終わったではないか。」と声をかけたとき、エジソンは次のように返したそうです。「無駄などではない。私は『6千種類の素材は電球に使えない』という、価値ある発見をすでに6千回もしたのだから。」

その後、エジソンがようやく巡り合った最高の素材、それこそが日本(京都の石清水八幡宮)の竹でした。この竹のおかげで、電球は長時間、暗闇を照らし続けることができるようになったのです。もしエジソンが途中の失敗を「無駄」だと諦めていたら、世界の歴史を変える偉大な灯りは生まれなかったかもしれません。

この話は、私たちに「失敗は終わりではなく、成功へ向かう大切なプロセスである」ということを教えてくれます。学校生活でも同じです。2学期、子どもたちは様々な場面で新しいことに挑戦します。その中では上手くいかないことや友達と意見がぶつかることもあるでしょう。これらはすべてエジソンの言う「使えない素材の発見」と同じであり、次の一步を踏み出すための貴重な経験、つまり「成長の種」です。子どもたちが失敗を恐れずに「まずはやってみよう」と思える安心・安全な環境づくりを徹底してまいります。結果だけではなく、挑戦しようとしたその勇気や努力したプロセスを丁寧に認めていく指導を大切にしていきます。

2学期も本校の教育活動への変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。